



JEPAセミナー

国立国会図書館の電子情報サービス に関する近年の動き



2025年3月26日

国立国会図書館 電子情報部長
伊藤克尚



本日の内容

○国立国会図書館ビジョン2021－2025

○デジタルシフトの進捗状況

～電子情報サービスの近年の動き～



国立国会図書館 ビジョン2021-2025



● 1948年開館 National Diet Library Japan

東京本館

国会向けのサービスや来館サービスを提供、3施設の統括

収蔵量 本館書庫：450万冊
新館書庫：750万冊
閲覧スペース 18,983㎡/1,519席

関西館

遠隔サービスの拠点、来館サービスの提供

収蔵量 本館書庫：600万冊
書庫棟：500万冊
閲覧スペース 4,265㎡/358席

国際子ども図書館

児童書の専門図書館

収蔵量 レンガ棟：40万冊
アーチ棟：65万冊
閲覧スペース 2,054㎡/162席



※数値は2019年度統計による

国立国会図書館ビジョン2021-2025

ユニバーサルアクセスの実現



国のデジタル情報基盤の拡充



国立国会図書館のデジタルシフト
—情報資源と知的活動をつなぐ7つの重点事業—

国立国会図書館ビジョン2021-2025

国立国会図書館のデジタルシフト —情報資源と知的活動をつなぐ7つの重点事業—

ユニバーサルアクセスの実現

将来にわたる全ての利用者に多様な情報資源を提供

- 1 国会サービスの充実
- 2 インターネット提供資料の拡充
- 3 読書バリアフリーの推進
- 4 「知りたい」を支援する情報発信

国のデジタル情報基盤の拡充

情報資源提供のための恒久的なインフラ整備

- 5 資料デジタル化の加速
- 6 デジタル資料の収集と長期保存
- 7 デジタルアーカイブの推進と利活用

強化・拡充

国立国会図書館の基本的役割

国立国会図書館は、国立国会図書館法前文に掲げられた使命を果たすため、納本制度に基づく資料・情報の収集を核として、国会、行政・司法各部門、国民に対するサービスを実施しています。「デジタルシフト」を推進するための7つの重点事業に取り組むとともに、以下の基本的役割を遂行します。

国会活動の補佐



国政課題に関する職員の専門的知見と豊富な情報資源に基づき、信頼性の高い調査・分析と迅速かつ的確な情報提供の一層の強化を通じ、国権の最高機関である国会の活動を十全に補佐します。また、国会の活動から生み出される情報に容易にアクセスできるようインターネットを通じて提供することで、国会と国民とをつなぎます。

資料・情報の収集・整理・保存



我が国の唯一の国立図書館として、将来にわたるアクセスを保証するため、紙・電子の形態を問わず、国内外の資料・情報を広く収集・整理・保存します。

情報資源の利用提供

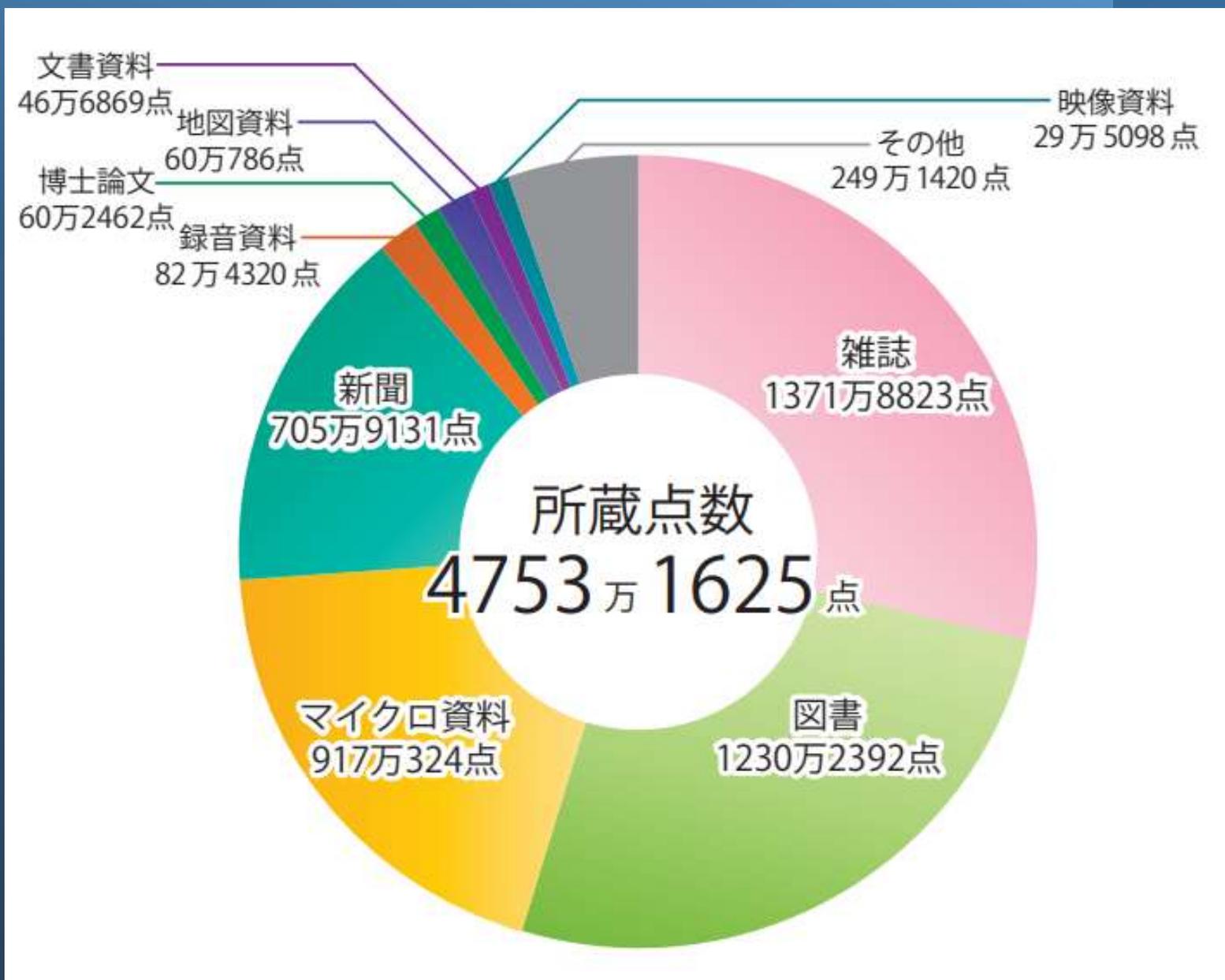


すべての利用者が、必要な情報に的確かつ効率的にアクセスできるよう、利用者サービスを提供するとともに、必要なシステムや施設の整備を行います。

各種機関との連携協力



国内外の多様な関係機関との連携・協力を通じて、知識・文化の基盤を一層豊かにし、人々の役に立つものとしします。



来館利用サービス

閲覧

176万7221点

東 165万7946点
西 7万7634点
子 3万1641点

来館して申し込まれた閲覧資料点数



遠隔複写

25万5806件

東 11万3059件
西 14万618件
子 2,129件

来館せずに申し込まれた複写件数



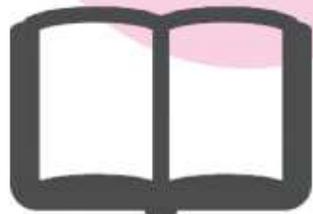
来館複写

95万2547件

うちデジタル化資料等の
プリントアウト件数

48万8643件

来館して申し込まれた複写件数



来館者

61万422人

東 41万3407人
西 6万6576人
子 13万439人



遠隔利用サービス

デジタルシフトの進捗状況 (電子情報サービスの近年の動き)

資料デジタル化の加速 (重点事業5)

インターネット提供資料の拡充 (重点事業2)

読書バリアフリーの推進 (重点事業3)

実験的サービス 次世代デジタルライブラリーの紹介

デジタル資料の収集と長期保存 (重点事業6)

デジタルアーカイブの推進と利活用 (重点事業7)

「知りたい」を支援する情報発信 (重点事業4)

資料デジタル化 の加速 (重点事業5)

～資料デジタル化の目的～

○資料原本の保存

紙資料の原本を利用に供することによる汚損、破損を避けるためにデジタル化を行い、原本に代えてデジタルデータを提供しています。

○サービスの向上

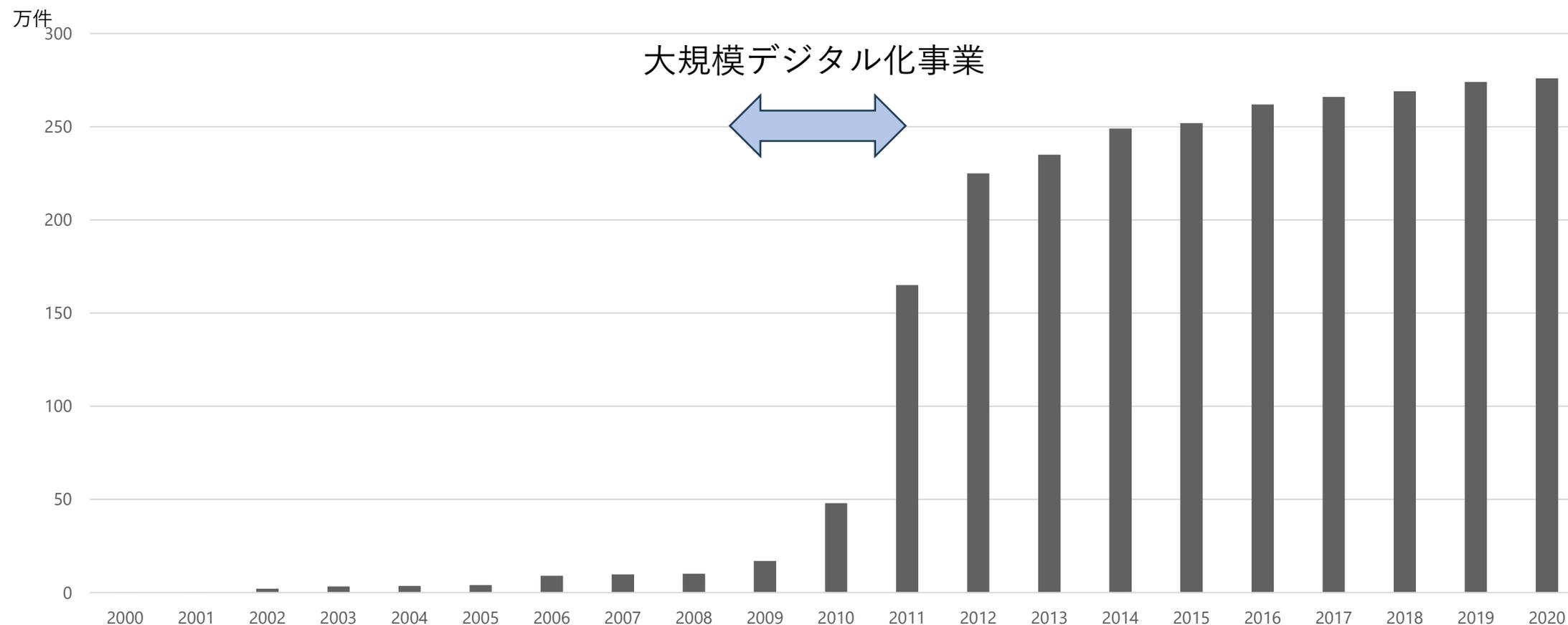
デジタルデータを提供することで、閲覧や検索における利便性や、障害者を含むあらゆる人々の利用可能性の向上を図ります。著作権等に留意しながら、デジタル化の成果が広く社会的に利活用されるように努めています。

2020年までのデジタル化

資料デジタル化と提供拡充の経緯（2020年まで）

1990年代	• パイロット電子図書館プロジェクト、電子展示会「デジタル貴重書展」
2000年	• 貴重書画像データベース公開
2002年	• 「近代デジタルライブラリー」公開 (著作権処理を実施した図書約33,000冊をインターネット公開、その後も2万~4万冊/年を追加)
2009年	• 著作権法改正 → 国立国会図書館で保存目的のデジタル化が可能に
2009年~ 2011年	• 大規模デジタル化事業実施 (2009年度補正予算、2010年度補正予算)
2011年	• 「国立国会図書館デジタル化資料」公開 (2014年「国立国会図書館デジタルコレクション」に名称変更)
2012年	• 著作権法改正 → 絶版等入手困難なデジタル化資料について、図書館等への送信が可能に
2014年	• 図書館向けデジタル化資料送信サービス (図書館送信) 開始
2015年	• 災害関係資料のデジタル化 (2014年度補正予算)
2018年	• 著作権法改正→絶版等入手困難なデジタル化資料について外国の図書館等への送信も可能に
2019年	• 図書館送信を外国の図書館等にも拡大
2020年	• 「新型コロナウイルス感染症」感染拡大への対応が始まる

デジタル化資料提供点数の動向（～2020年）



2021年以降の計画と進捗

「新型コロナウイルス感染症」 感染拡大への対応

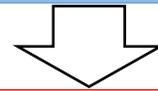
「新型コロナ感染症」 感染拡大（2020年～）



全国の図書館が閉館（資料にアクセスできない）

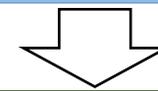


インターネット経由での資料提供の拡充が求められる



著作権法改正（2021年）

国立国会図書館から個人への絶版等資料のインターネット送信



令和2年度補正予算の措置以降、これまで国内刊行図書デジタル化を集中的に実施中

資料デジタル化基本計画2021-2025

https://www.ndl.go.jp/jp/preservation/digitization/digitization_plan2021.pdf

デジタル化の優先順位

- 唯一性・希少性
- 資料の利用機会の拡大
- 資料の劣化状況、保存の緊急性
- デジタル化への社会的・学術的ニーズ
- 国や世界の体系的なデジタルコレクション構築への貢献

資料デジタル化基本計画2021-2025

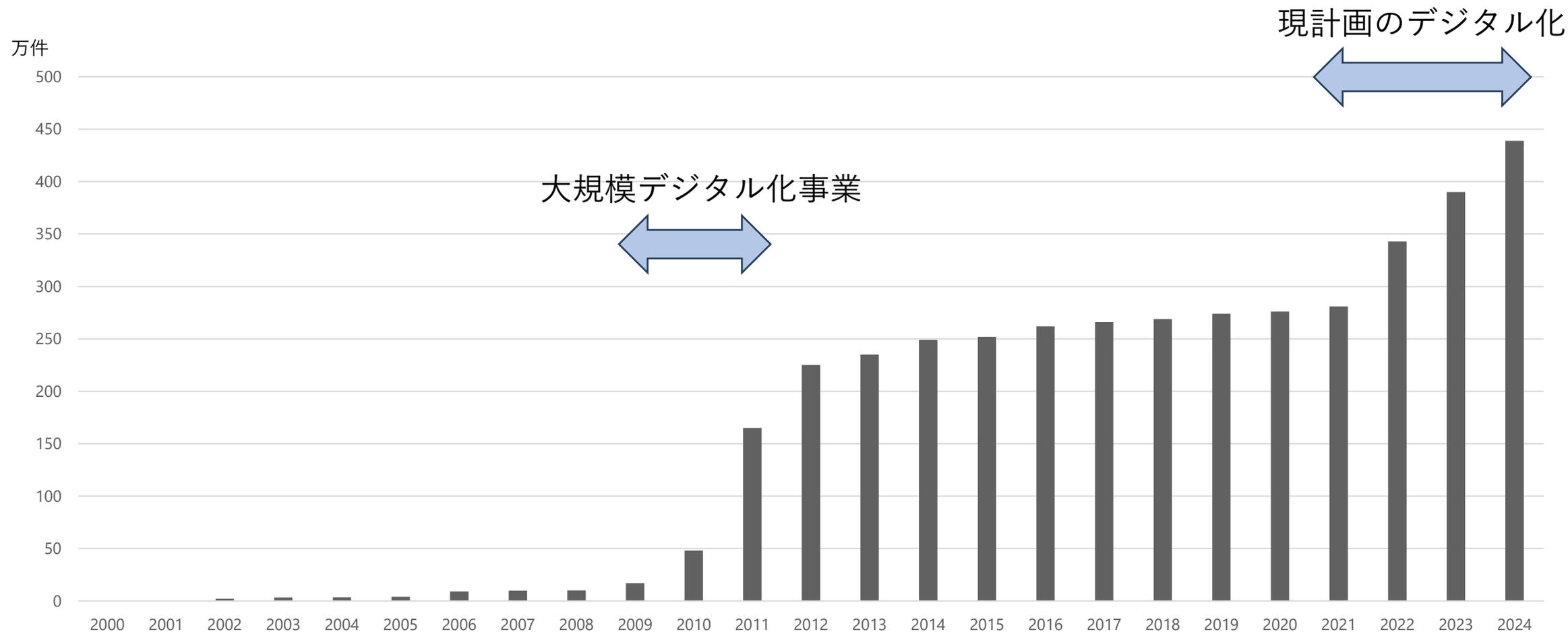
https://www.ndl.go.jp/jp/preservation/digitization/digitization_plan2021.pdf

デジタル化の対象範囲

国内で刊行された以下の資料

- 2000年までに刊行された図書 約170万点
- 刊行後 5 年以上経過した雑誌
- その他の資料
 - 古典籍資料、録音・映像資料、博士論文、憲政資料、日本占領関係資料、日本移民関係資料、地図資料、新聞資料

デジタル化資料提供点数の動向



インターネット提供資料の拡充



国立国会図書館

著作権保護期間満了・
許諾等

65万点
(2025.2)

インターネット公開

絶版等入手が困難なもの

203万点

(2025.2)

2021年著作権法改正

個人への送信

【2022年5月19日開始】

図書館への
送信

国内1,476館
海外11館
(2025.3)

34万件
(FY2023)



29万人
(2025.2末)



766万件
(FY2023)



デジタル化の 最新状況

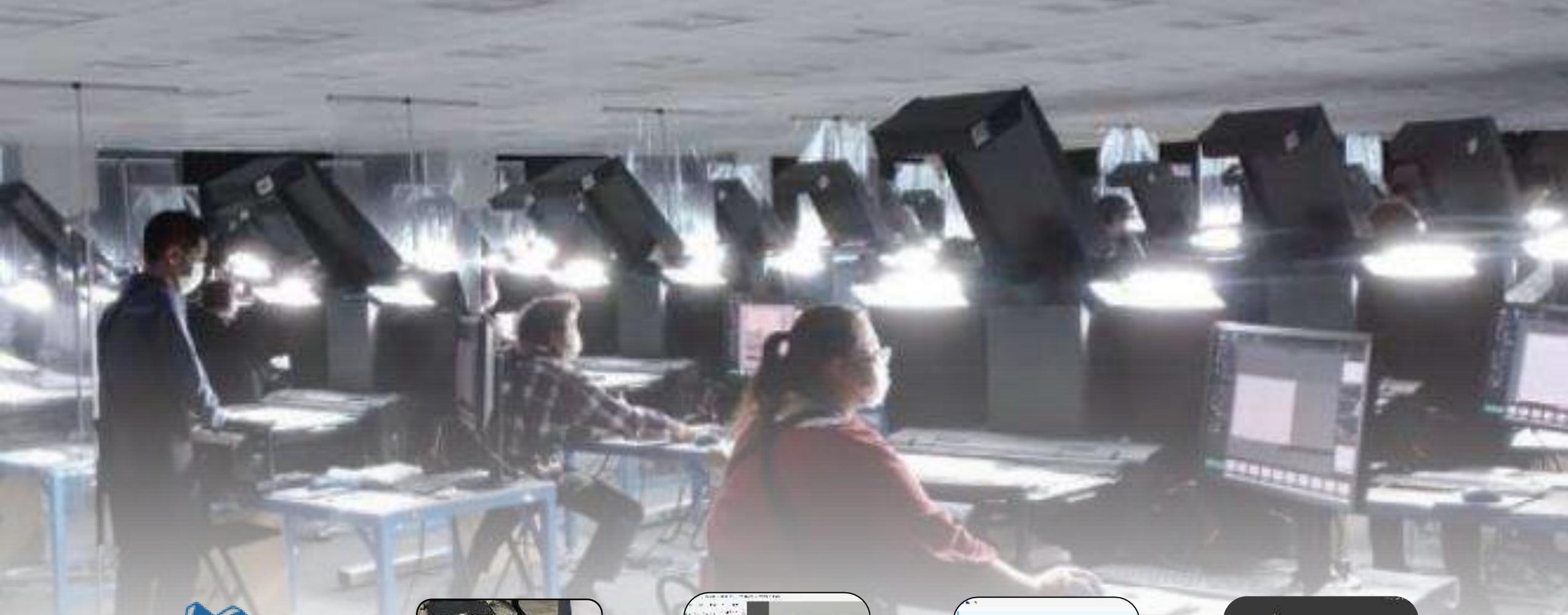
(2025年2月末現在)

(万点)

資料群	インター ネット 公開	送信 サービス	館内 限定公開	合計
図書	37	102	83	222
雑誌	2	83	56	140
古典籍	8	2	0.3	10
博士論文	1	14	2	18
新聞	-	-	17	17
その他	16	3	12	32
合計	65	203	171	439

デジタル化の実務

— どうやってデジタル化しているのか



①資料選定

②スキャン

③品質検査

④データ登録

⑤公開

デジタル化作業

『国立国会図書館月報』
(733) 2022.5
から一部抜粋



(上) ガラス板の下のページを物差しなどで整えます
(中) 厚みのある資料は左右の板の高さを調整
(下) テンポよく、かつ丁寧にページをめくります

05 撮影

デジタル化＝撮影は、ブックスキャナと呼ばれる専用の機材を使って行います。大量のデジタル化を行うため、100台以上のスキャナが並ぶ姿は壮観です。

撮影作業の生産性は、資料の状態（厚さ、開き、折り込み図の有無等）によって大きく変動しますが、おおよそ1人1日500～1,000コマ程度です。

撮影作業は、熟練を要する人手の作業です。資料を破損しないように、かつ資料の綴じに近い部分の文字などもはっきり読めるように、ガラス板で押さえながら撮影していきます。ガラス板が動いてしまうと画像がブレてしまいますが、テンポよくページをめくっていかないと生産性が上がりません。

デジタル化とサービス

デジタル化資料は

国会図書館デジタルコレクションで提供

デジタル化資料のほかに、収集した電子書籍・電子雑誌も提供しています。

国立国会図書館デジタルコレクション
(トップ画面)

<https://dl.ndl.go.jp/ja/>



デジタル化資料＜主な資料群の紹介①＞

（詳細は、国立国会図書館デジタルコレクション「資料の概要説明」をご覧ください。すべての資料群ではありませんが、タイトルリストのデータセットも提供しています。）

<https://dl.ndl.go.jp/intro#t1>

資料群	年代等
図書	明治期以降、1995年までに整理された図書等
雑誌	国内刊行雑誌のうち、劣化した雑誌や学術雑誌等（刊行後5年以上経過したもの）
古典籍	貴重書・準貴重書、江戸期以前の和漢書等
博士論文	1987（昭和62）～2000（平成12）年度に国内の大学から送付を受けた論文、1923（大正12）～1958（昭和33）年に学位授与された論文の一部
新聞	明治期以降に刊行された新聞のうち、資料保存のためにデジタル化したもの等
官報	1883（明治16）年7月2日（創刊）～1952（昭和27）年4月30日に発行された官報
帝国議会資料	帝国議会（貴族院・衆議院）の議事資料や出版物

デジタル化資料<主な資料群の紹介②>

(詳細は、国立国会図書館デジタルコレクション「資料の概要説明」をご覧ください。)

<https://dl.ndl.go.jp/intro#t1>

資料群

年代等

憲政資料

近現代の日本の政治家・官僚・軍人などが所蔵していた書簡・書類・日記等

録音・映像関係資料

カセットテープ、ソノシートなどの録音資料（付属する冊子等を含む）、レーザーディスクなどの映像資料（付属する冊子等を含む）、日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアムから寄贈された1980年以前の放送脚本（テレビ・ラジオ番組の脚本・台本）の一部、明治期以降の日本人作曲家の手稿譜及びその関連資料の一部

(参考) 国立国会図書館デジタルコレクションのうち、歴史的音源のみを検索・視聴できる歴史的音源専用ページ（れきおん）もあります。<<https://rekion.dl.ndl.go.jp/>>

地図

明治期から1967（昭和42）年までに国内で刊行された地図資料

その他

日本占領関係資料：米国の国立公文書館が所蔵する戦後の日本占領に関する公文書のうち、米国戦略爆撃調査団文書、極東軍文書等の一部

日系移民関係資料：中南米、北米、ハワイ等において個人からの寄贈や購入等により収集した日本人移民関係の資料の一部

プランゲ文庫：プランゲ文庫（戦後GHQが検閲のために集めた日本国内出版物）のうち図書等の一部

歴史的音源：1900年初めから1950年頃までに国内で製造されたSP盤等に収録された音楽・演説等

他機関デジタル化資料：科学映像、東京大学附属図書館デジタル化資料、愛・地球博、内務省検閲発禁図書など

デジタル化の法的枠組み

図書館等（国立国会図書館も含む）は保存のためのデジタル化が可能

- 著作権法第31条第1項第2号**

図書館資料の保存のため必要がある場合、図書館資料を用いて著作物を複製できる

国立国会図書館は原本代替や送信サービスのためのデジタル化も可能

- 著作権法第31条第6項**

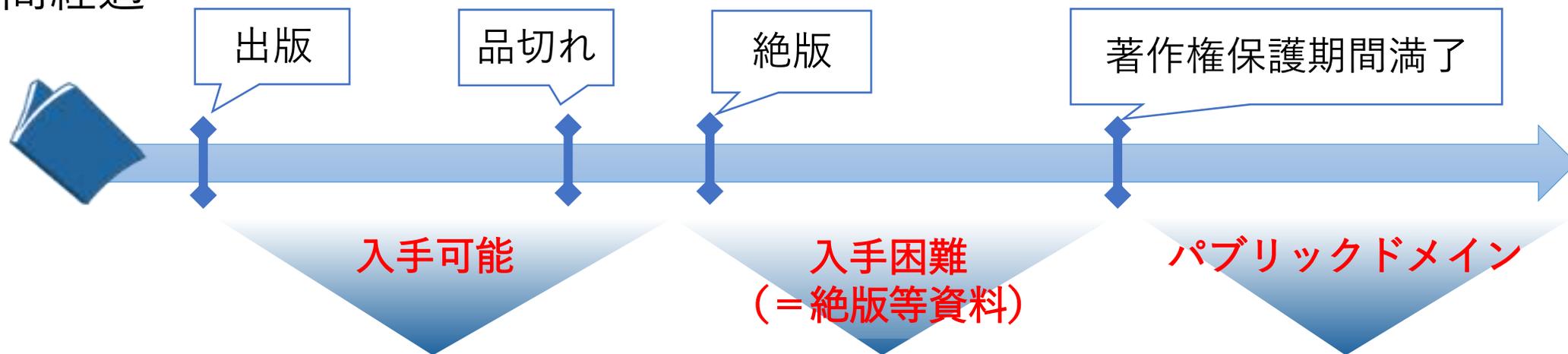
図書館資料の原本に代えて公衆の利用に供するため、又は絶版等資料に係る著作物を自動公衆送信（送信可能化を含む）に用いるため、電磁的記録を作成し、記録媒体に記録できる。

- 著作権法第31条第7～11項**

絶版等資料に係る著作物について、自動公衆送信を行うことができる。

デジタル化資料の公開範囲

出版後の時間経過



公開範囲

NDL館内での閲覧	○	○	○
送信サービス	×	除外手続で決定	○
インターネット公開	△ 許諾があれば可能	△ 許諾があれば可能	○

除外手続とは

データベース等との突合
による入手可能性調査

送信候補資料リストの
公開と除外申出の受付

送信開始後も除外
申出の受付を継続

除外基準

- 当該資料又は同内容の著作物が市場で流通している、または流通予定がある。
- 当該資料又は同内容の著作物の著作権が著作権等管理事業者により管理されている。
- 当該資料の著作者から送信利用の停止の要請がある。

テキスト化とその活用

—実験的取組みと新しいサービス

資料のOCRテキストデータを用いたサービス

OCRによるテキスト化

デジタル化画像



テキストデータ

情報技術によって私たちの社会活動やコミュニケーションのあり方が変容し、さらに新型コロナウイルスが大きな影響を及ぼす中で、社会のデジタルシフトが加速しようとしています。この状況を踏まえ、国立国会図書館は、情報資源と様々な知的活動を的確につなげるために、今後

2021年度に247万点のテキスト化を実施

2024年からはNDLが開発したNDLOCRを利用

国立国会図書館 デジタルコレクション

デジタル化資料の全文検索



みなサーチ

(国立国会図書館障害者用資料検索)

視覚障害者等用データ送信サービス

テキスト化の 最新状況

(2025年2月末現在)

国立国会図書館デジタルコレクションでは、各資料の全文テキストデータを用いた全文検索サービスを提供しています。

全文検索でヒットした箇所は、検索結果一覧に表示され、該当箇所に直接移動することができます。

主な対象資料の内訳は下表のとおりです。

当館が国立国会図書館デジタルコレクション上で提供を行っている図書・雑誌等資料のうち約318万点が全文検索の対象です。

資料群	資料概数 (点)	うち、全文検索可能な資料概数 (点)
図書	222.4万	162.9万
雑誌	139.9万	137.8万
博士論文	18万	14.9万
官報	2.1万	2.1万

「読書バリアフリー」重点事業3

NDL障害者用資料検索：みなサーチ



◆ 視覚障害その他の理由で通常の活字の印刷物の読書が困難な方が利用しやすい形式の資料を探ることができるサービス

◆ 視覚障害者等の方を対象として、みなサーチで提供しているデジタル化資料の全文テキストデータが300万点を超え（2025年2月）、令和6年度末までに合計約322万点になる見込み

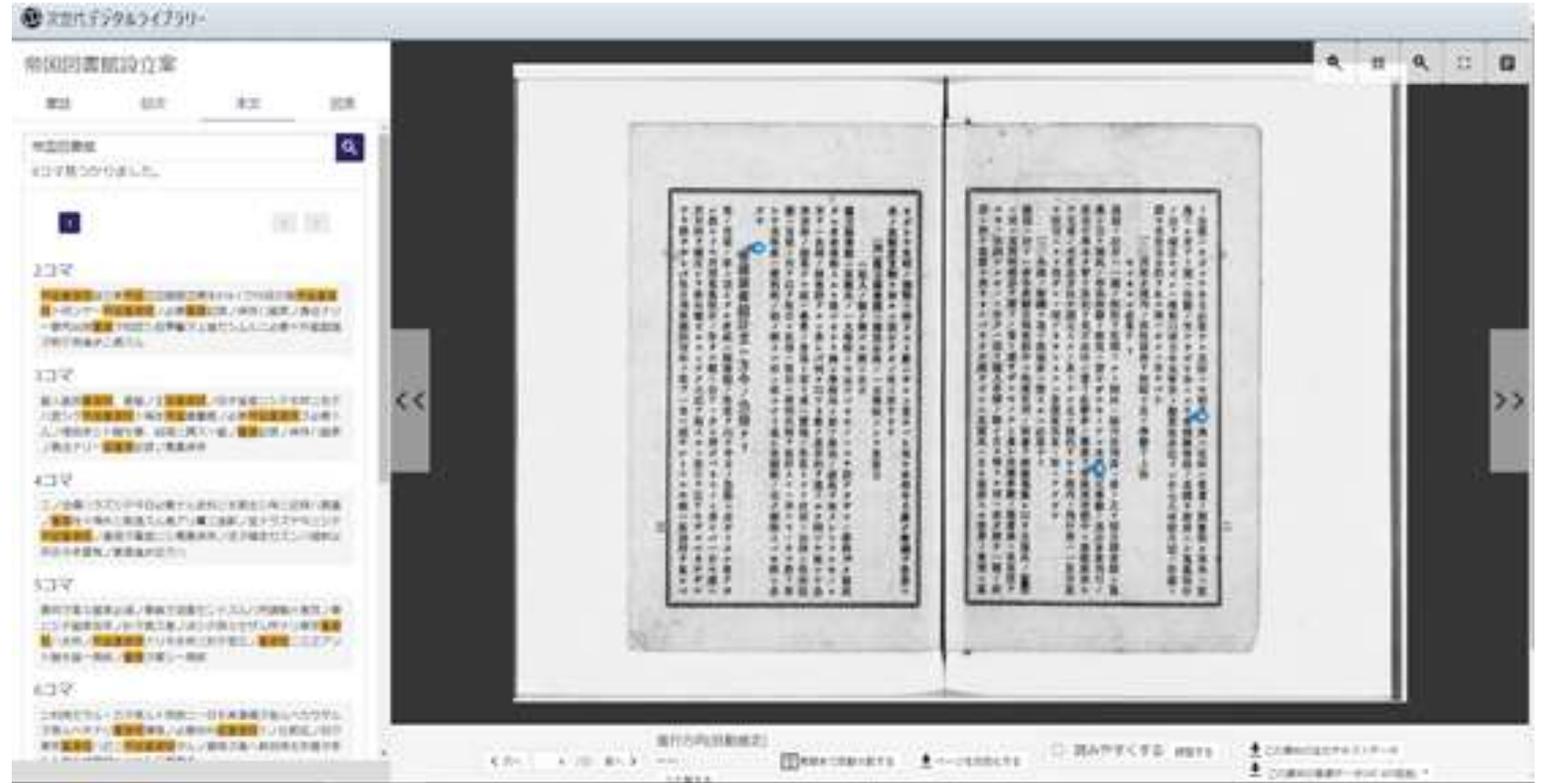
「帝国議会議録検索システム」 本文テキストデータの提供開始（2024年8月）

国会サービスの充実
（重点事業1）

The screenshot displays the search results page for the Imperial Diet Records Search System. The search criteria are 'Imperial Library Establishment Proposal' (帝国図書館ヲ設立スルノ建議) using the AND operator. The results show two entries from the 9th Imperial Diet, House of Peers, Main Session, 18th and 19th sessions, both held on February 12 and 13, 1896. The first entry includes a list of speakers and their topics, such as 'Honeyhime Goro' (蜂須賀 五郎) and 'Togayama' (徳岡 武吉).

- 「帝国議会議録検索システム」帝国議会の速記録の画像データ及び本文テキストデータを提供
- 2024年8月に、1890年11月から1945年8月までの本文テキストデータを、新たに公開。これにより、帝国議会の全期間にわたり、速記録に掲載された質疑や議案本文などの全文検索とテキスト表示が可能に
- 3月18日帝国議会議録検索システムに、国会議会議録検索システムと同様の、テキストデータ等を取得できるAPI機能を追加

実験的サービス 次世代 デジタルライブラリー



- 次世代システム開発研究室での研究を基にした実験的な検索サービスを提供
- 本格的な全文テキスト検索機能も、まず次世代デジタルライブラリーで開発

近年のOCR関連事業のあゆみ①

2021年度

1. デジタル化資料のOCRテキスト化事業（外部委託）

既存のOCRサービスをNDLの所蔵資料に最適化するように再学習、「国立国会図書館デジタルコレクション」に2020年末時点で搭載されていたほぼ全ての（活字の）デジタル化資料約247万点（約2億2300万画像コマ）のOCRテキスト化を完了

2. OCR処理プログラム（NDLOCR）の研究開発事業（外部委託）

当館が今後デジタル化した資料のテキスト化に利用できるOCR処理プログラムの開発。NDLOCRはオープンソースとして公開しており、機械学習で改善可能かつカスタマイズ可能

※達成したOCRの認識性能や事業の詳細については「令和3年度OCR関連事業について」([https://lab.ndl.go.jp/data set/ocr/](https://lab.ndl.go.jp/data_set/ocr/))のページで公表

近年のOCR関連事業のあゆみ②

2022年度

3. 視覚障害者等用データ作成のためのOCR処理プログラムの研究開発（外部委託+内製改良）

NDLOCRに対して認識性能改善や機能追加を実施、NDLOCR ver.2として追加公開

①読み上げ用順序の調整機能開発

②レイアウト情報の自動付与機能開発：テキストデータの構造化

③漢字の読み情報の自動付与機能開発

④テキスト化の性能改善（文字認識精度・処理速度の改善） 等

4. 古典籍資料のOCRテキスト化実験（内製開発）

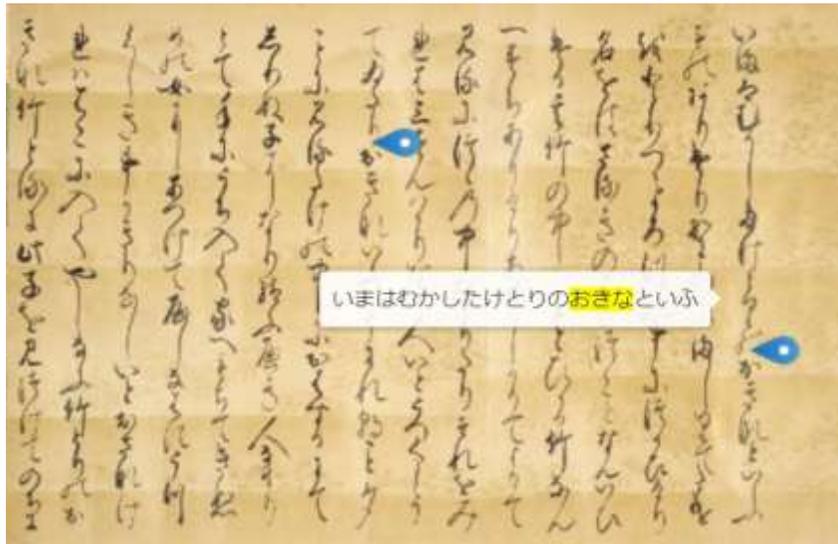
ノウハウを生かしつつ新しい手法を取り入れ、「**NDL古典籍OCR**」を開発

NDL古典籍OCRを利用した全文検索機能の提供

NDL古典籍OCRで作成した古典籍資料約8万点分のテキストデータを利用して、実験サービスである次世代デジタルライブラリーで全文検索機能を提供（国立国会図書館デジタルコレクションには未搭載）

まだ認識性能に改善の余地があるため、うまく読めない資料もあるが、内容のおおよその把握に便利

「おきな（翁）」で全文検索した結果
[竹取物語 - 次世代デジタルライブラリー \(ndl.go.jp\)](http://ndl.go.jp)



「月蝕（月食）」で全文検索した結果
[\[師守記\] - 次世代デジタルライブラリー \(ndl.go.jp\)](http://ndl.go.jp)



近年のOCR関連事業のあゆみ③

2024年度

5. NDL古典籍OCR-Liteの開発（内製開発）

- テキスト化のニーズには小回りが利いて環境を選ばず動作する軽量なOCRも必要
- 国内外の利用者からも、macOSへの対応や軽量版を求める声が寄せられていた
- NDL古典籍OCR開発時に作成したデータセットを再利用して軽量版の開発にチャレンジした
- 2024年11月に公開

NDL古典籍OCR-Lite

マウスクリックのみで操作可能なアプリケーションを提供

NDL古典籍OCR-Lite-GUI

処理対象と出力先を選択して「OCR」ボタンを押してください

画像ファイル进行处理する フォルダ内の画像进行处理する 処理対象: F:\ndlkotenocr-lite\example\digidepo_2565673_0011.jpg

出力先を選択する 出力先: F:\ndlkotenocr-lite\example\output

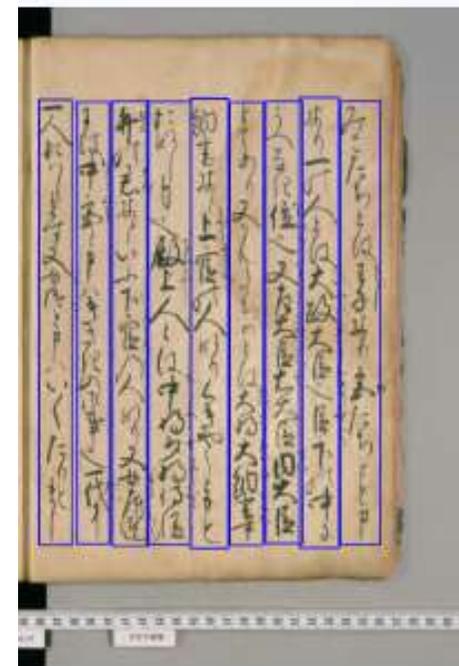
OCR 認識箇所の可視化画像を保存する 1 画像OCR完了 / 所要時間 3.78 秒

出力形式の選択

処理結果プレビュー 前の画像 次の画像

みこたちとはわ子より宮たちとも申より一人の人は大政大臣也臣下の中に入へなき位也又左大臣右大臣同大臣にてあり又かたちめとは大将大納言中納言など上官の人なりきやうと申をおなし力也殿上人とは中将少将侍従并の君といふ下官の人なり又女房達には中宮と申はきさきの御事也一代に一人おはします又女御と申はいくたりもします是は二位なり是もてくるまにのり給ふないしのかみせんし殿は三位なり更衣は四位也王子をまふけ給へは御息所と申也命婦采女などは五位也此女房のさふらい所はたいはん所也おとしゆのさふらひ所は殿上なり一の御子は朱

拡大



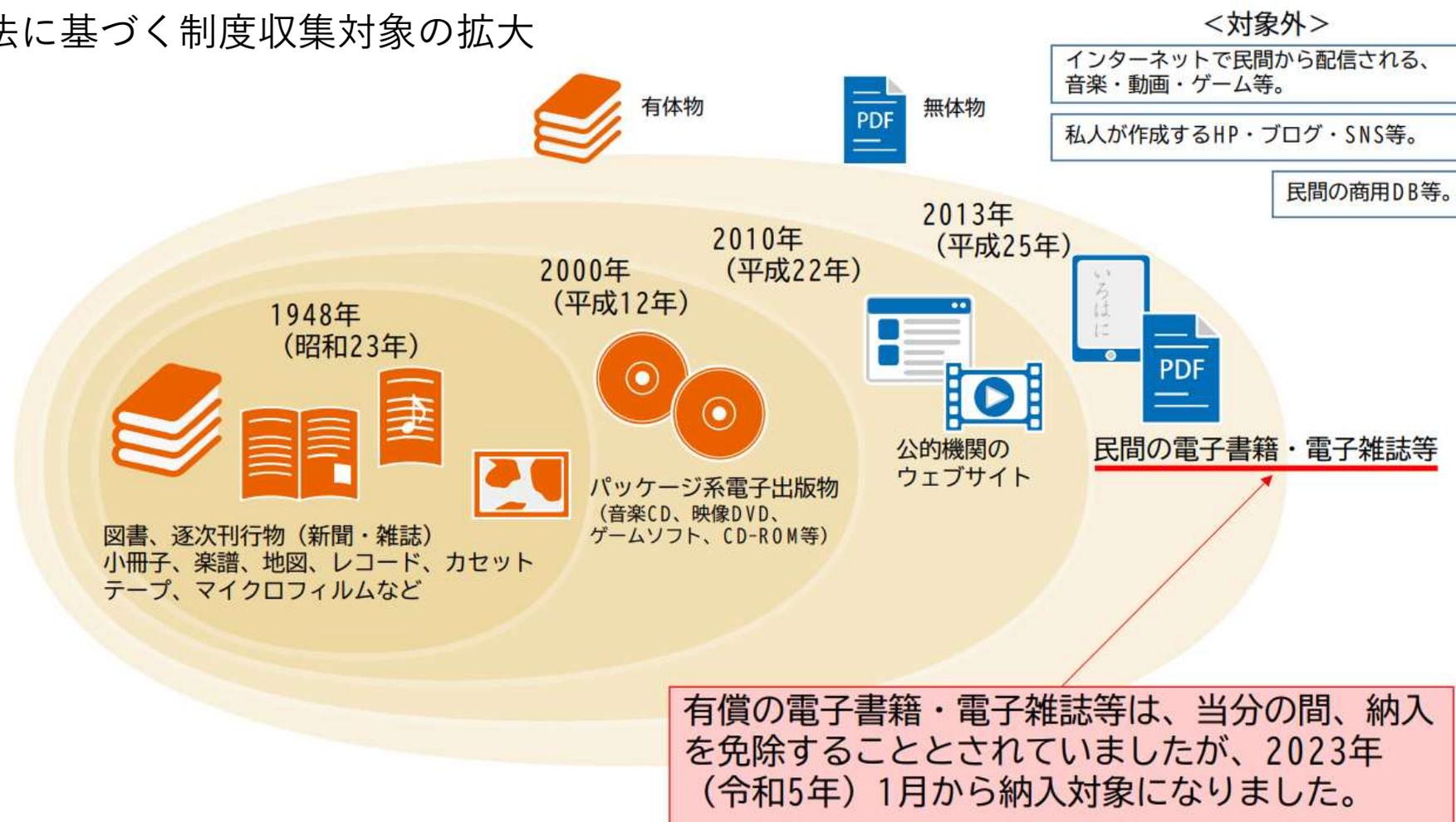
みこたちとは。わ子なり宮たちとも申なり一人の人は大政大臣也臣下の中に入へなき位也又左大臣右大臣同大臣とてあり又かたちめとは大将大納言中納言など上官の人なりきやうと申もおなし身也殿上人とは中将少将侍従竹の君などいふ下官の人なり又女房達には中宮と申はきさきの御事也一代に一人おはします又女御と申はいくたりもします是は二位なり是もてくるまにのり給ふないしのかみせんし殿は三位なり更衣は四位也王子をまふけ給へて御息所と申也命婦采女などは五位也此女房のさふらい所はたいはん所也おとしゆのさふらひ所は殿上なり一の御子は朱

デジタル資料の収集と長期保存

有償等オンライン資料の制度収集開始

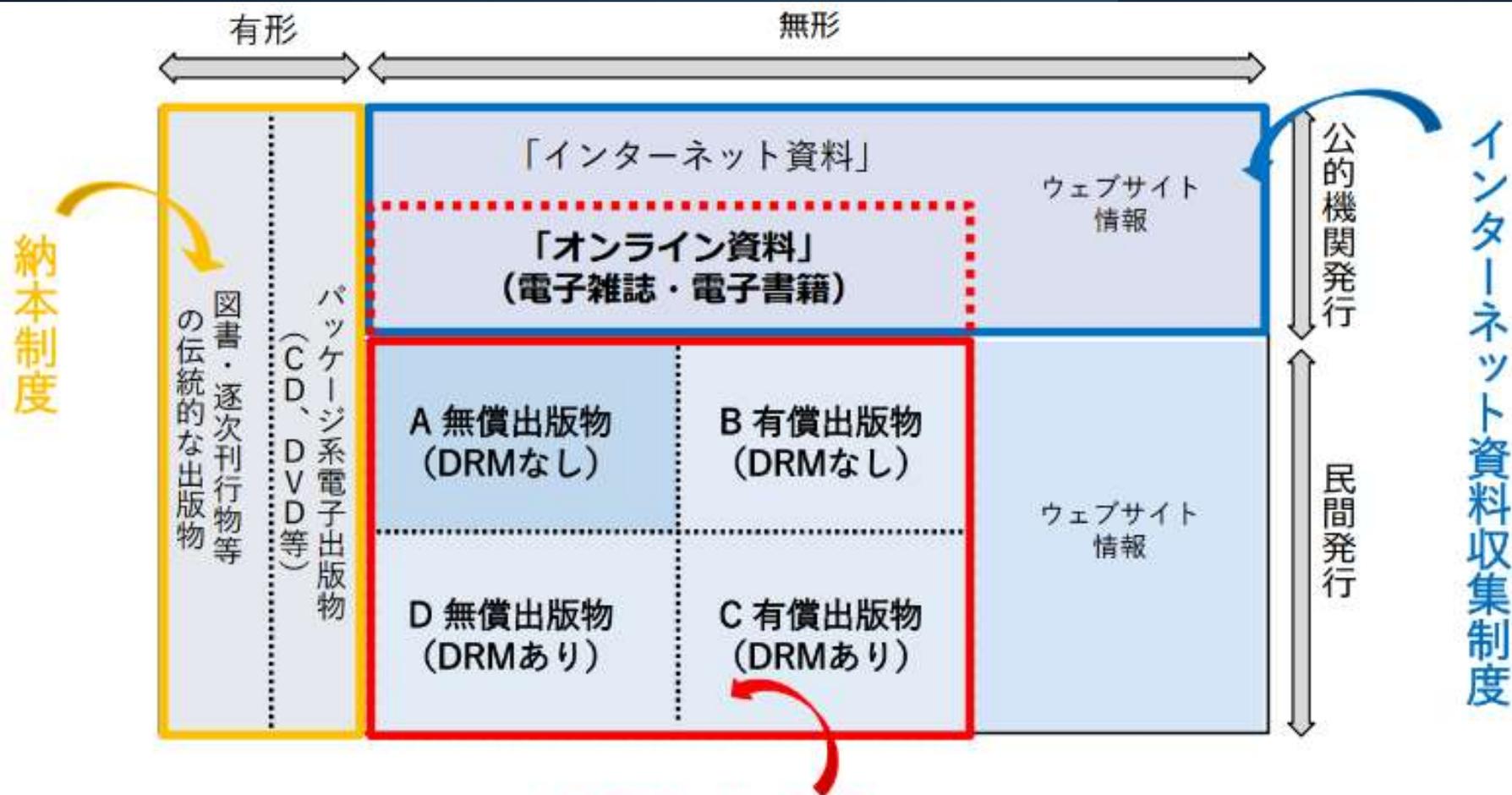
< デジタル資料の収集と長期保存（重点事業6） >

国立国会図書館法に基づく制度収集対象の拡大



有償等オンライン資料の制度収集開始

< デジタル資料の収集と長期保存（重点事業6） >



オンライン資料収集制度

※A群は2013年7月収集開始

B、C、D群は2023年1月収集開始

有償等オンライン資料の制度収集開始

< デジタル資料の収集と長期保存（重点事業6） >

電子書籍・電子雑誌の収集制度、具体的な手続等に関しては、次のページをご参照ください。

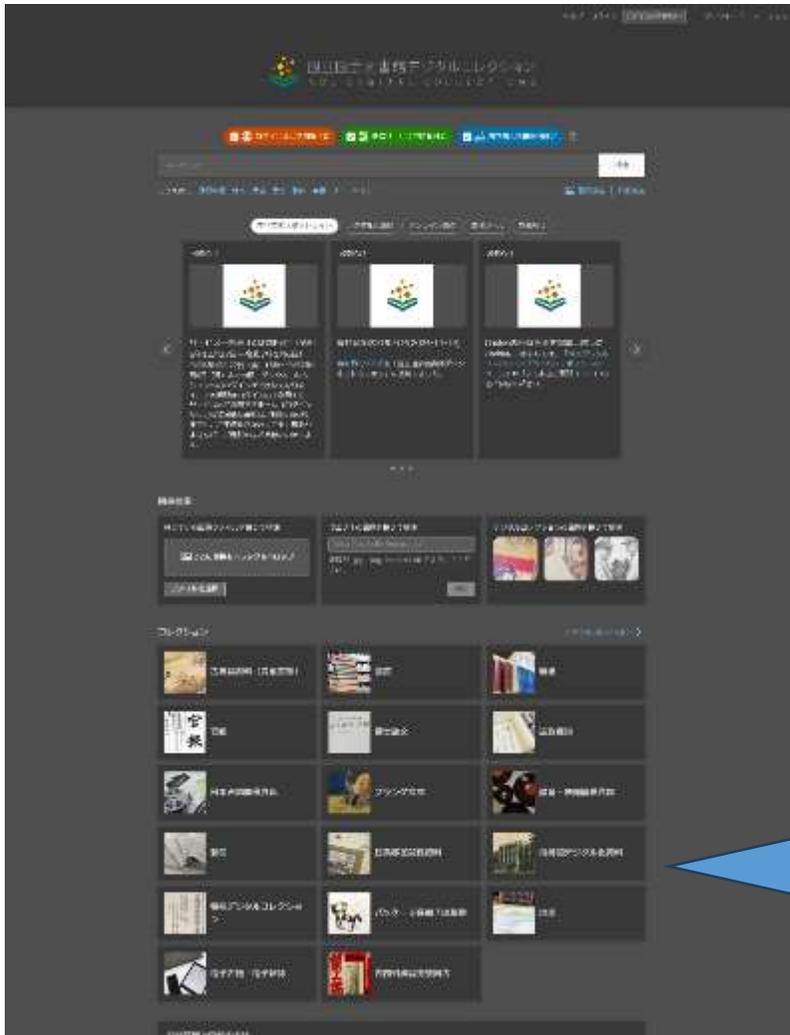
<https://www.ndl.go.jp/jp/collect/online/index.html>

未収かつ入手困難資料のデータ収集事業

デジタル資料の収集と長期保存（重点事業6）

国立国会図書館が所蔵していない入手困難資料について、公共図書館・大学図書館等からデジタル化データの形式で収集する事業

- デジタル化したデータを当館に提供
- デジタルコレクションのデジタル化資料として長期保存、送信可能なものは館内だけでなく図書館/個人送信サービスでも利用提供



11機関からのデジタル化資料
約9,300点を収載（本事業による
収集のほか寄贈等も含む）
内インターネット公開約5,200
点、送信可能約2,900点

パッケージ系電子出版物のマイグレーション

< デジタル資料の収集と長期保存（重点事業6） >

パッケージ系電子出版物のマイグレーション

→ 所蔵資料の長期保存対策

媒体種別	所蔵数 (令和2年度時点の概数)	令和5年度までの 実施数
CD 等	数十万枚以上	約 15,000
書換型の CD 等	1,000	394
USB メモリ	600	547
MO	36	36
MD	1,177	144
FD	12,400	12,312

国立国会図書館はCD、DVD、USBメモリといったパッケージ系電子出版物も所蔵している。

これら電子資料の永続的な利用を保証するために、マイグレーション（媒体変換など）を実施

より劣化が懸念されるフロッピーディスク（FD）、及びUSBメモリ等のマイグレーションを令和5年度までにほぼ終了。

現在は光ディスク（CD等）について、アプリケーション等の機械可読資料、図書の付録資料を中心にマイグレーションを実施中

NDLサーチ

< 「知りたい」を支援する情報発信 >

新「国立国会図書館サーチ」公開（2024年1月）

< 「知りたい」を支援する情報発信（重点事業4） >

- 1 資料やデジタルコンテンツなどの豊富な資料を探しやすく
- 2 「知りたい」を支援する情報提供を充実
- 3 国立国会図書館の豊富な書誌データを利活用しやすい形で提供

新「国立国会図書館サーチ」公開（2024年1月）

< 「知りたい」を支援する情報発信（重点事業4） >

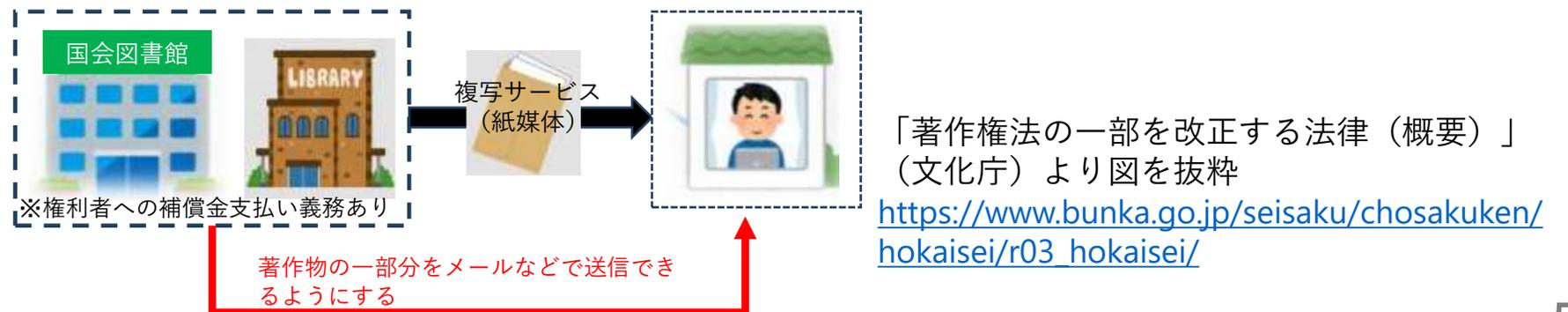
- 2024年1月に、従来のウェブサービス「国立国会図書館検索・申込オンラインサービス（国立国会図書館オンライン）」及び「国立国会図書館サーチ」を統合・リニューアルし、新しい「国立国会図書館サーチ」としてサービスを開始した。
- 調べ物に役立つ調べ案内（1,800件以上）を提供する「リサーチ・ナビ」も新しい「国立国会図書館サーチ」に統合された。
- 結果、利用者は、資料を検索する画面の中から調べ案内にたどりつくことも、調べ案内から資料の書誌情報にたどりつくこともできるようになった。



国立国会図書館サーチトップ画面
<https://ndlsearch.ndl.go.jp/>

図書館等公衆送信サービス（2025年2月）

- 著作権法（昭和45年法律第48号）第31条第2項に基づくサービス
- 図書館が、調査研究の用に供するため著作物の一部分をメールなどで送信できる
- 著作権者等への補償金を、文化庁長官が指定する団体（一般社団法人図書館等公衆送信補償金管理協会（SARLIB））に支払う
- 当館では、「遠隔複写（PDFダウンロード）サービス」として令和7年2月20日から申込受付開始



ジャパンサーチ

<国のデジタル情報基盤の拡充>

各種機関との連携協力

ジャパンサーチ

< <https://jpsearch.go.jp/> >

デジタルアーカイブの推進と利活用

(重点事業7)



- ◆ 我が国が保有する様々な分野のコンテンツのメタデータを検索・閲覧・活用できるプラットフォーム
- ◆ 「デジタルアーカイブ推進に関する検討会」の方針のもと、さまざまな分野の機関との連携・協力により、国立国会図書館がシステムを運用
- ◆ 265のデータベースと連携し、約3100万件のメタデータを検索可能

ジャパンサーチの3つの機能（概要）

① 分野の特性を活かした検索機能

横断検索・画像検索



② クリックするだけで楽しめる機能

テーマに沿ったコンテンツを集めた
ギャラリーを提供



③ 利活用促進の基盤となる利活用機能

- お気に入りをマイノートに登録し、マイギャラリーで編集可能
- マイギャラリーの共同編集ができるワークスペース
- ジャパンサーチが集約したメタデータをAPIで提供





御清聴ありがとうございました

